

日 時	令和3年12月21日（火）午前10時～午前11時40分
場 所	北栄町役場大栄庁舎 3階 第1委員会室
出 席 者	委員4名、オブザーバー1名、事務局3名
内 容	<p>1. 開会</p> <p>2. 委員紹介</p> <p>3. 協議事項</p> <p>(1) 計画進捗状況について ※事務局より説明</p> <p>&lt;委員&gt; 未達成項目のうち、特に進捗率が悪いのが中高生への（郷土愛等の質問に関する）アンケート結果。将来学生が帰ってきたくなるような深掘した取り組みが必要では。</p> <p>&lt;事務局&gt; 現状の取り組みでいえば、職場体験、地域探求の時間が挙げられるがそれだけに限らず、ふるさとに誇りを持てるようさまざまな方面から地元を目指す機会が必要。</p> <p>&lt;委員&gt; 進捗状況の目標値はH26～R1の5年間、計画はH30～R5の5年間だが。</p> <p>&lt;事務局&gt; 進捗状況の目標値は「北栄町まち・ひと・しごと創生総合戦略」のKPIをもとにしたもの。改めて計画のために目標値を設定するのではなく、総合戦略の目標値を活かしているためズレが生じている。</p> <p>&lt;委員&gt; コロナ感染拡大前後で進捗状況の目標値が変わってくる。どう設定するか。</p> <p>&lt;事務局&gt; コロナ感染拡大前後で大きく数値が変わっている観光客数を含め、社会情勢に合わせて設定する。</p> <p>&lt;委員&gt; 観光客の集客対策として観光客へのニーズ調査があげられているが、実施結果は。</p> <p>&lt;事務局&gt; 担当課に問い合わせしてから次回お示しする。</p> <p>(2) 改訂案について ※事務局より説明</p> <p>&lt;委員&gt; 進捗状況には総合戦略の目標値等が反映されているが、計画自体には具体的な目標値が設定されておらず、それぞれの取り組みのイメージがわからない。</p> <p>&lt;事務局&gt;</p>

計画後半の参考資料として、まちづくりビジョン・総合戦略のKPIを掲載する。

<委員、オブザーバー>

- ・コロナ禍のため、観光客集客の取り組みからインバウンドの項目を削除するとのことだが、数年後は状況が変わっているかもしれない。国内観光客だけでは集客は期待できないし、コロナ収束後のインバウンドも需要があるので、長期的に見て削除しないほうがよいのでは。
- ・インバウンドの項目と併せて民泊の取り組みも削除されているが、町内に宿泊施設がなく、近隣の宿泊施設に観光客が流れてしまっているため町内の宿泊施設についても力を入れるべき。これについても削除しないほうがよいのでは。

<事務局>

コロナ収束後の観光客増加を期待し、両者とも削除しない。

<委員>

各施策の発展的な取り組み方針として、活動第1ステージ、活動第2ステージに分けているが、第1ステージの「町のリーダーシップで2年以内に着手」という文言は、策定から3年経過しているため変えるべきでは。

<事務局>

第1ステージは行政による支援、第2ステージではそれを潤滑油として地域（民間）における行動を活発にしようという認識となる。  
文言を整理したうえで、次回お示しする。

<委員>

それまでの計画内容には明記されていないのに、活動第2ステージで突然「災害時におけるエネルギー供給の拠点づくり」について出てくるが。

<事務局>

災害時に町内企業に関わることができる項目として計画の中で取り組みを示しているもの。

<オブザーバー>

町と共同で策定した事業継続力強化計画に災害対策について示しているの  
で、町と相談して修正できたら。

(3) その他

<委員>

- ・計画内の人口推移のグラフを見ると、2005年に生産年齢人口が1万人を切り、2040年にはその約半分ほどになると推計されている。これが喫緊の課題であるため、今すぐに将来を担う子どもたちが地元に戻ってこられるような取り組みを行っていかなければならない。
- ・田舎は小規模企業が多いからこそ働きがいを実感できる場所であるため、職場体験だけでなく何か子どもたちに実体験（働きがい）について伝える機会があれば。
- ・ウッドショック、原油高騰などコロナでさまざまな業種に影響が出ている。特に田舎は供給が少ないように感じる。

4. 閉会

次回、令和4年2月開催予定。